

各関係機関の長
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

平成24年度病害虫防除情報第14号

ワタアブラムシの薬剤感受性検定結果についてとりまとめましたので、お知らせします。

**県内でネオニコチノイド系の複数の農薬に対して感受性が低下したワタアブラムシが確認されています。
薬剤の効果を確認し、ローテーション散布に努めましょう。**

1 作物名 園芸作物全般

2 病害虫名 ワタアブラムシ

3 内容

1) 県内のきゅうり及びピーマンから採取したワタアブラムシの薬剤感受性検定を実施した結果、一部のネオニコチノイド系薬剤において感受性の低下が確認された。(平成24年7月15日付け病害虫防除情報第6号)

さらに、総合農業試験場生物環境部及び病害虫防除・肥料検査センターで、新たに日南市の2個体群を用い、ネオニコチノイド系薬剤7剤について薬剤感受性検定を実施した結果、同様に感受性の低下が確認された。(表1)

2) 最も感受性の低かったきゅうり系統II個体群を用い、ネオニコチノイド系以外の各種系統18薬剤に対する薬剤感受性検定を実施した結果、11薬剤で補正死虫率が100%と高い感受性を示した。(表3)

表1 県内各地から採取したワタアブラムシの感受性検定結果

供試薬剤名	補正死虫率 (%)					対照個体群 (総合農試)
	きゅうり系統I (宮崎市)	きゅうり系統II (串間市)	ピーマン系統I (都城市)	ピーマン系統II (日南市)	ピーマン系統III (日南市)	
1 アドマイヤー水和剤	45.5	26.7	65.5	43.3	57.1	100.0
2 ベストガード水溶剤	13.6	22.4	20.7	6.7	32.1	100.0
3 スタークル顆粒水溶剤	27.3	6.7	3.4	0.0	0.0	96.4
4 ダントツ水溶剤	27.3	23.3	34.5	20.0	35.7	100.0
5 アクタラ顆粒水溶剤	27.3	26.2	13.8	42.3	12.0	96.4
6 モスピラン水溶剤	100.0	96.7	86.2	100.0	100.0	100.0
7 バリアード顆粒水和剤	100.0	90.2	100.0	92.3	100.0	100.0

1) 検定は幼苗検定法(熊本県、2000)に準じて行い、ワタアブラムシ無翅成虫(10頭×3反復)の72時間後の補正死虫率を算出した。

2) 供試薬剤の希釈倍率は表3のとおり。

3) 斜字体は防除情報第6号で発表。対照個体群は、総合農試で2008年に採取し累代飼育した個体群。

表2 表1に示した供試薬剤の希釈倍数

	商品名	成分名	成分含有量	希釈倍率
1	アドマイヤー水和剤	イミダクロプリド水和剤	10.0%	2,000
2	ベストガード水溶剤	ニテンピラム水溶剤	10.0%	2,000
3	スタークル顆粒水溶剤	ジノテフラン水溶剤	20.0%	2,000
4	ダントツ水溶剤	クロチアニジン水溶剤	16.0%	2,000
5	アクタラ顆粒水溶剤	チアメトキサム水溶剤	10.0%	3,000
6	モスピラン水溶剤	アセタミプリド水溶剤	20.0%	2,000
7	バリアード顆粒水和剤	チアクロプリド水和剤	30.0%	2,000

表3 きゅうり系統Ⅱ個体群ワタアブラムシに対する各種薬剤の検定結果

供試薬剤名	補正死虫率 (%)		(参考) アブラムシ類での農薬登録のある 主な施設野菜
	きゅうり系統Ⅱ (きゅうり)	対照個体群 (きゅうり)	
1 トレボン乳剤	69.8	89.7	きゅうり、ピーマン、なす、メロン、すいか、トマト
2 アディオン乳剤	77.4	100.0	きゅうり、ピーマン、いちご、なす、メロン、すいか、トマト、ミニトマト
3 アグロスリン乳剤	66.0	96.6	きゅうり、ピーマン、いちご、なす、メロン、すいか、トマト
4 ロディー乳剤	100.0	79.3	きゅうり、ピーマン、いちご、なす、メロン、すいか、トマト
5 テルスターフロアブル	100.0	100.0	きゅうり、なす
6 アーデント水和剤	100.0	100.0	きゅうり、ピーマン、いちご、なす、メロン、すいか
7 スカウトフロアブル	88.7	100.0	きゅうり、なす、メロン、すいか
8 サイハロン乳剤	89.3	100.0	きゅうり、なす、メロン、すいか、トマト、ミニトマト
9 スミチオン乳剤	88.7	100.0	きゅうり、なす、メロン、すいか、トマト、ミニトマト
10 アクテリック乳剤	100.0	100.0	なす
11 オルトラン水和剤	100.0	96.4	なす、トマト、ミニトマト
12 ダイアジノン乳剤40	100.0	100.0	きゅうり、メロン、すいか、トマト
13 オリオン水和剤40	100.0	100.0	メロン、すいか
14 ピラニカEW	35.8	89.3	きゅうり、いちご
15 ハチハチ乳剤	100.0	100.0	きゅうり、なす、すいか、トマト、ミニトマト
16 チェス顆粒水和剤	100.0	96.6	きゅうり、ピーマン、いちご、なす、メロン、すいか、トマト、ミニトマト
17 コルト顆粒水和剤	100.0	100.0	きゅうり、ピーマン、いちご、なす、トマト、ミニトマト
18 ウララDF	100.0	89.7	きゅうり、いちご、なす、メロン、すいか、トマト、ミニトマト

- 1) 検定は幼苗検定法（熊本県、2000）に準じて行い、ワタアブラムシ無翅成虫（10頭×3反復）の72時間後の補正死虫率を算出した。チェス顆粒水和剤、コルト顆粒水和剤、ウララDFについては、96時間後に生死を判定した。
- 2) 供試薬剤の希釈倍率は表4のとおり。
- 3) 対照個体群は、総合農試で2008年に採取し、累代飼育した個体群。

表4 表3に示した供試薬剤の希釈倍率と薬剤の系統

	商品名	成分名	成分含有量	希釈倍率	備考
1	トレボン乳剤	エトフェンプロックス乳剤	20.0%	1,000	合成ピレスロイド系
2	アディオン乳剤	ペルメトリン乳剤	20.0%	2,000	合成ピレスロイド系
3	アグロスリン乳剤	シペルメトリン乳剤	6.0%	2,000	合成ピレスロイド系
4	ロディー乳剤	フェンプロパトリン乳剤	10.0%	1,000	合成ピレスロイド系
5	テルスターフロアブル	ビフェントリン水和剤	7.2%	4,000	合成ピレスロイド系
6	アーデント水和剤	アクリナトリン水和剤	3.0%	1,000	合成ピレスロイド系
7	スカウトフロアブル	トラロメトリン水和剤	1.4%	2,000	合成ピレスロイド系
8	サイハロン乳剤	シハロトリン乳剤	5.0%	2,000	合成ピレスロイド系
9	スミチオン乳剤	MEP乳剤	50.0%	1,000	合成ピレスロイド系
10	アクテリック乳剤	ピリミホスメチル乳剤	45.0%	500	有機リン系
11	オルトラン水和剤	アセフェート水和剤	50.0%	1,000	有機リン系
12	ダイアジノン乳剤40	ダイアジノン乳剤	40.0%	1,000	有機リン系
13	オリオン水和剤40	アラニカルブ乳剤	40.0%	1,000	カーバメート系
14	ピラニカEW	テブフェンピラド乳剤	10.0%	2,000	殺ダニ
15	ハチハチ乳剤	トルフェンピラド乳剤	15.0%	1,000	その他
16	チェス顆粒水和剤	ピメトロジン水和剤	50.0%	5,000	その他
17	コルト顆粒水和剤	ピリフルキナズン水和剤	20.0%	4,000	その他
18	ウララDF	フロニカミド水和剤	10.0%	2,000	その他

4 防除上の注意

- 1) 県内各地で薬剤感受性が低下したワタアブラムシが確認されたことから、薬剤散布後には防除効果の確認を十分に行い、地域・ほ場ごとに適切な薬剤の選定を行う。
- 2) 有効な薬剤に対する抵抗性発達を回避する観点から、同一系統薬剤の連用は避け、系統の異なる薬剤のローテーション散布に努める。
- 3) ほ場内をこまめに見回り、早期発見に努め速やかに防除を実施する。
- 4) 作期全体の防除体系の検討を行い、微生物農薬や気門封鎖型薬剤等を使用するなど、効果の高い薬剤の温存に努める。
- 5) ワタアブラムシは多くの植物に寄生するため、きゅうり・ピーマン以外の野菜や花き類等、園芸作物全般で注意が必要である。

6) 表1、表3に示した防除効果は、アブラムシが発生したほ場の農薬散布履歴等により防除価が変化する事があるので留意すること。

5 その他

- 1) その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病害虫防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。
- 2) 農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危被害防止に努めましょう。

《連絡先》

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター 中村

TEL :0985-73-6670 FAX :0985-73-2127

E-mail : byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp

ホームページ : <http://www.jpjn.ne.jp/miyazaki>